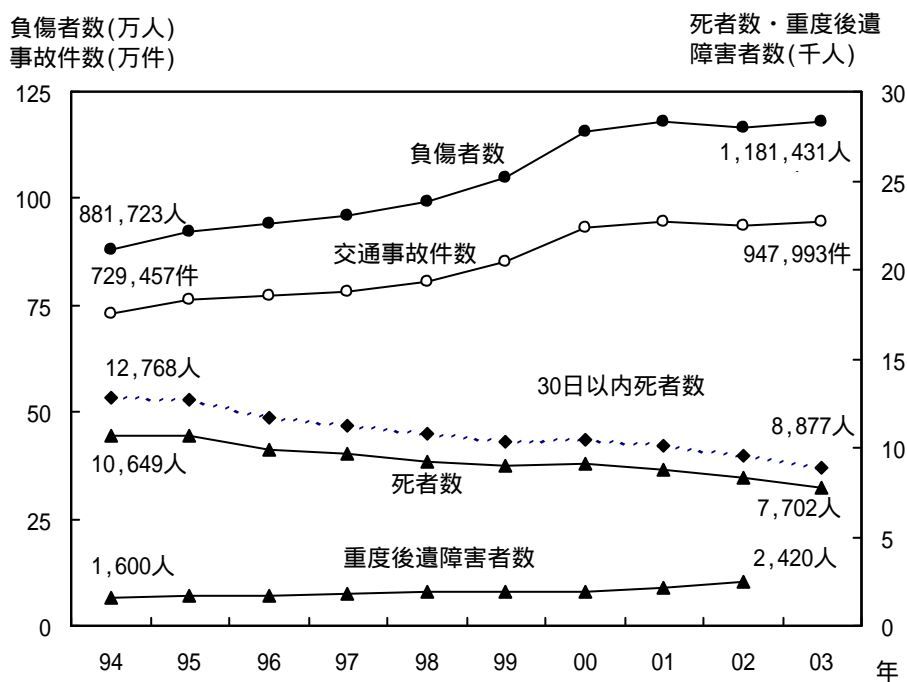


最近の交通事故等の発生状況について

1. 交通事故の推移

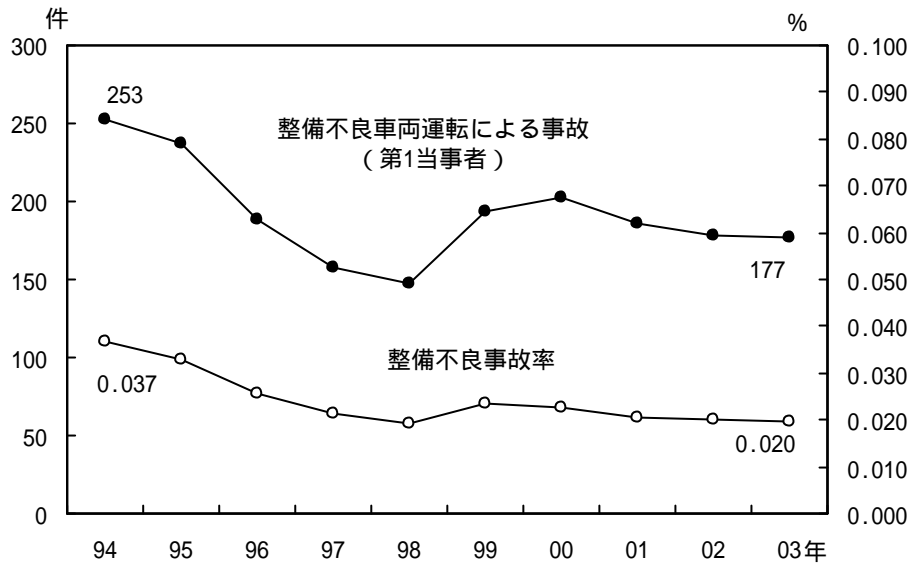
交通事故件数は、増加傾向にあったが、最近 2、3年は横ばい状況である。
 交通事故による死者数は減少傾向にあるが、一方、重度後遺障害者数は増加傾向にある。
 整備不良による事故件数は、マクロ調査及びミクロ調査とも減少傾向にあったが、最近 5 年程度で見ると横ばいである。

図表 1 交通事故件数等の推移



資料：重度後遺障害者は国土交通省
 30日以内死者数は警察庁
 その他は（財）交通事故総合分析センター「交通統計」

図表2 整備不良による交通事故件数及び事故率
(マクロ調査、交通警察官調べ)



資料：(財)交通事故総合分析センター「交通統計」

図表3 ミクロ調査による整備不良台数とその割合

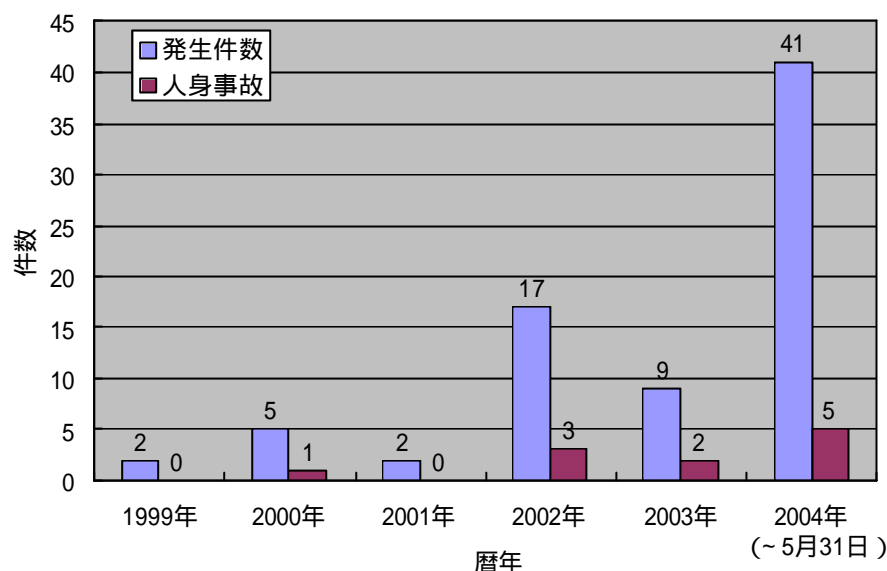
	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	累計
調査台数 (a)	106	398	424	430	434	434	419	453	463	478	4,039
整備不良が確認された台数(b) 同構成比 (b)/(a)×100 %	6	15	28	29	11	9	6	8	19	23	154
整備不良が交通事故の要因として関与したと推測された台数(c) 同構成比 (c)/(a)×100 %	-	6	7	7	4	3	4	4	5	3	43
	-	1.5	1.7	1.6	0.9	0.7	1.0	0.9	1.1	0.6	1.1

資料：(財)交通事故総合分析センター「交通事故データからみた自動車の点検整備に関する調査分析報告書」(平成15年度)

2.最近の特徴的な事故事例

(1)ホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の発生状況

図表4 車輪脱落事故発生状況(1999～2004.5 :76件)



資料：国土交通省

国土交通省において平成16年4月16日～5月15日に実施した「大型車のホイール・ボルトの緊急点検」において、大型車のホイール・ボルトの不具合を点検したところ、トラックに約2%の不具合が発見された。

図表5 大型車のホイール・ボルトの不具合率

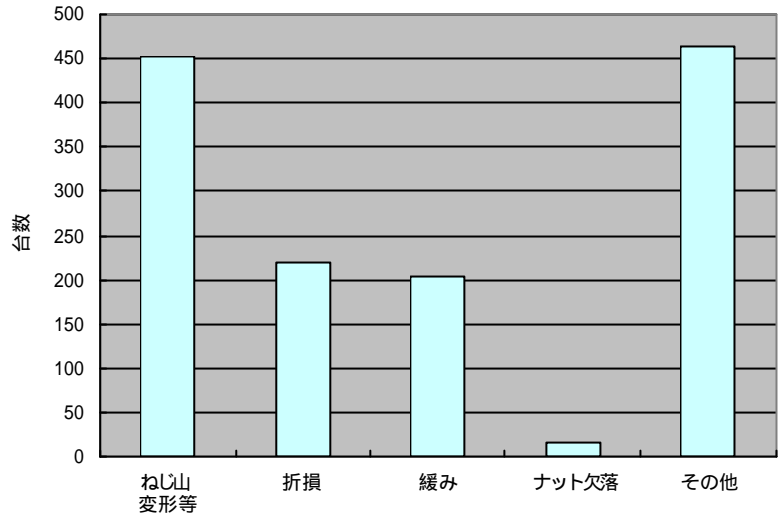
【単位：台】

	点検車両数(A)	不具合のあったもの(B)	不具合率(B/A)
トラック協会関係	155,219	3,049	2.0%
バス協会関係	64,166	430	0.7%
ダンプカー協会関係	2,259	11	0.5%
自家用自動車協会関係	1,001	16	1.6%
自動車整備振興会関係	28,207	790	2.8%
自動車販売店協会	4,319	249	5.8%

緊急点検を実施した結果、不具合が発見されたもの全てで、内訳はホイール・ボルトの折損、異常(変形、伸び、摩耗等)、緩み、ナット欠落及びホイールの亀裂等ボルト以外のものを含む。

また、自動車メーカー等からの報告（緊急点検を実施した結果、不具合が発見され、自動車メーカー等の系列ディーラーに持ち込まれて、整備が行われたもの）によると、不具合の内容等は以下のとおりであった。

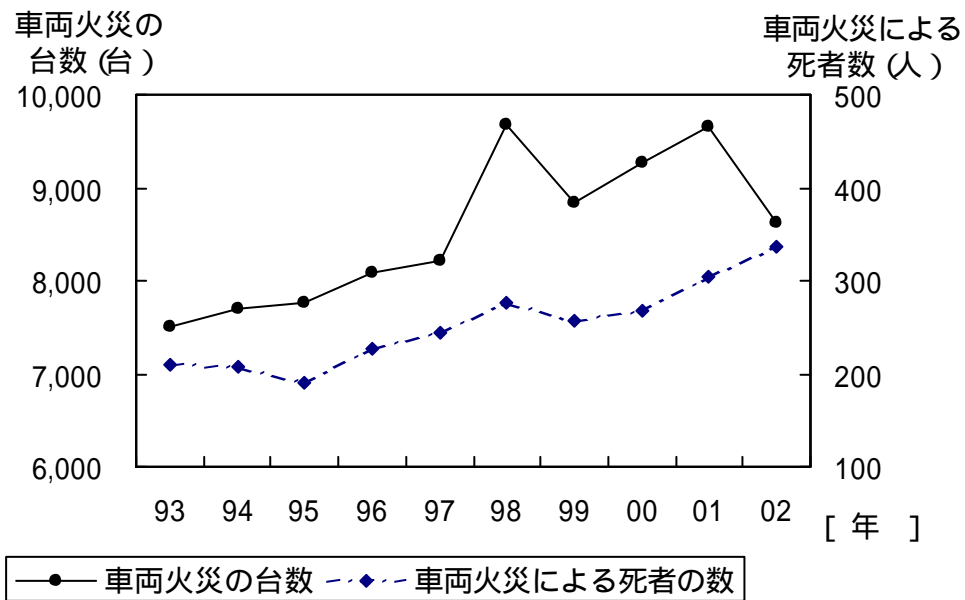
図表 6 大型車のホイール・ボルトの緊急点検における不具合内訳



資料：国土交通省

(2)車両火災事故発生状況

図表 7 車両火災の台数等の推移



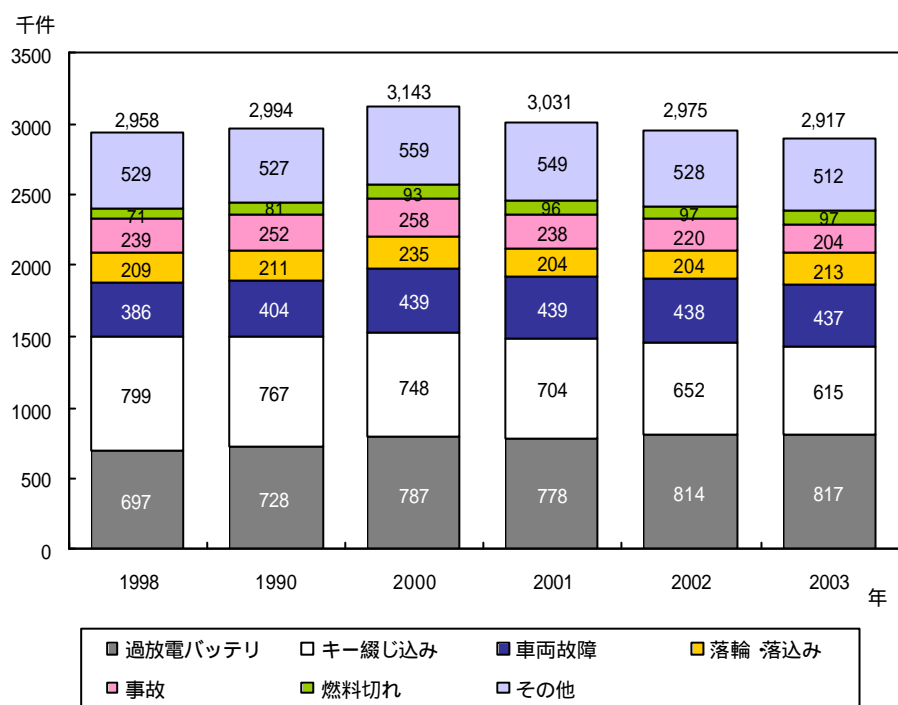
資料：消防庁

3. ロードサービスの出動状況

車両故障による JAF の出動件数は、毎年 43 万件以上発生しており、近年横ばいである。

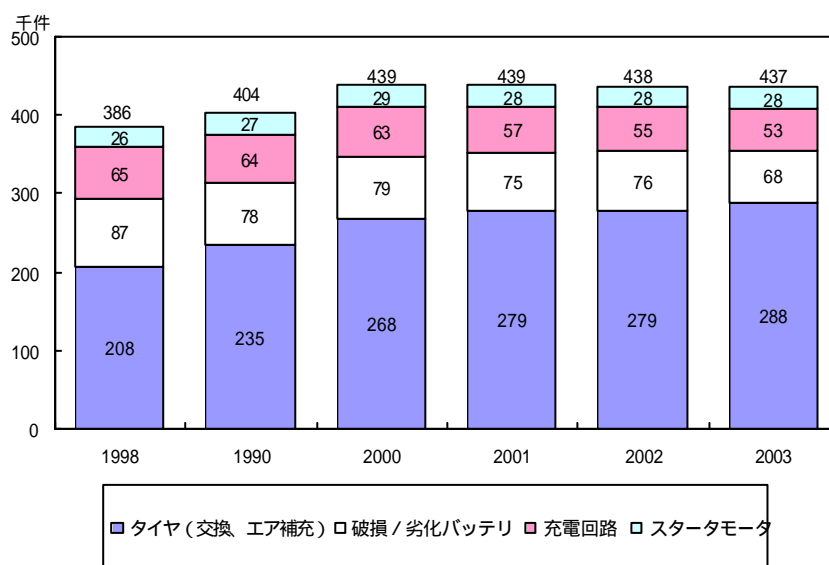
図表 8 JAFロードサービスの出動状況

(全体)



注：「その他」の中には、件数が少ない車両故障が含まれる。

(車両故障の内訳)



資料：(財)日本自動車連盟